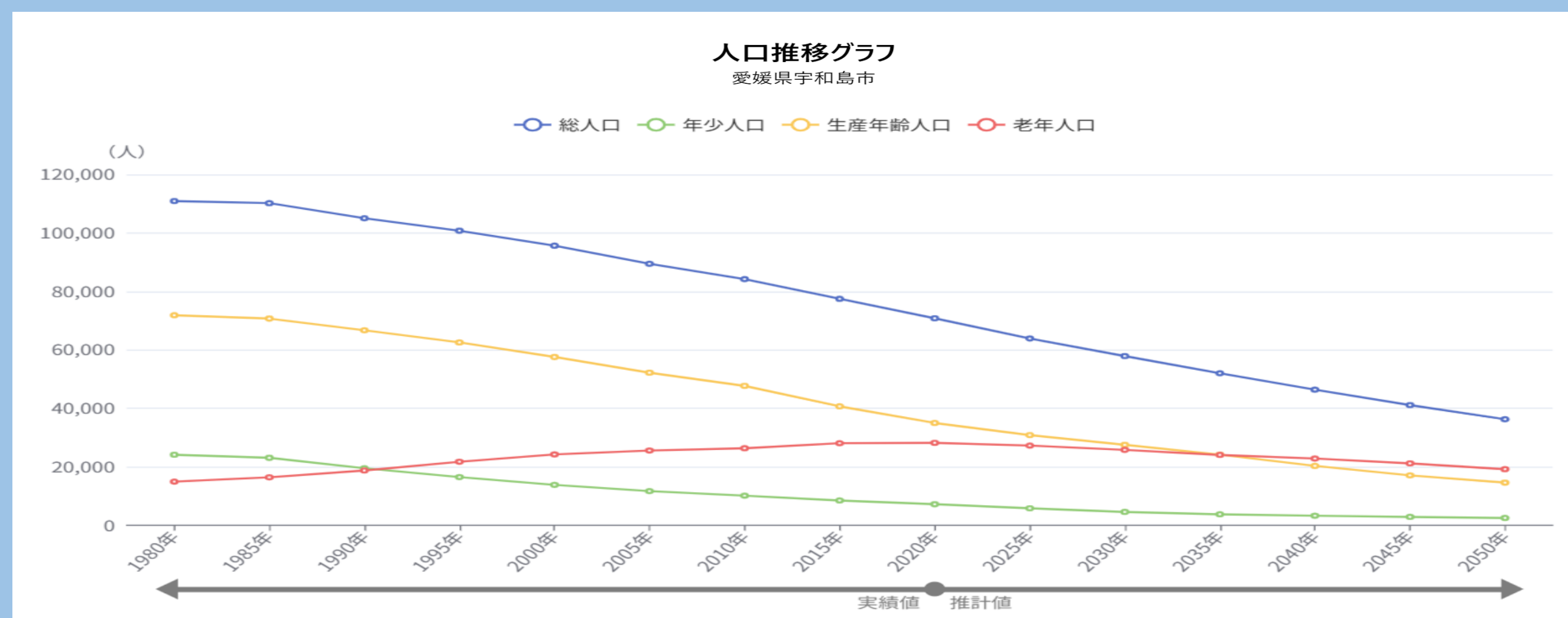


アニマルセラピーで高齢者の生活を豊かに

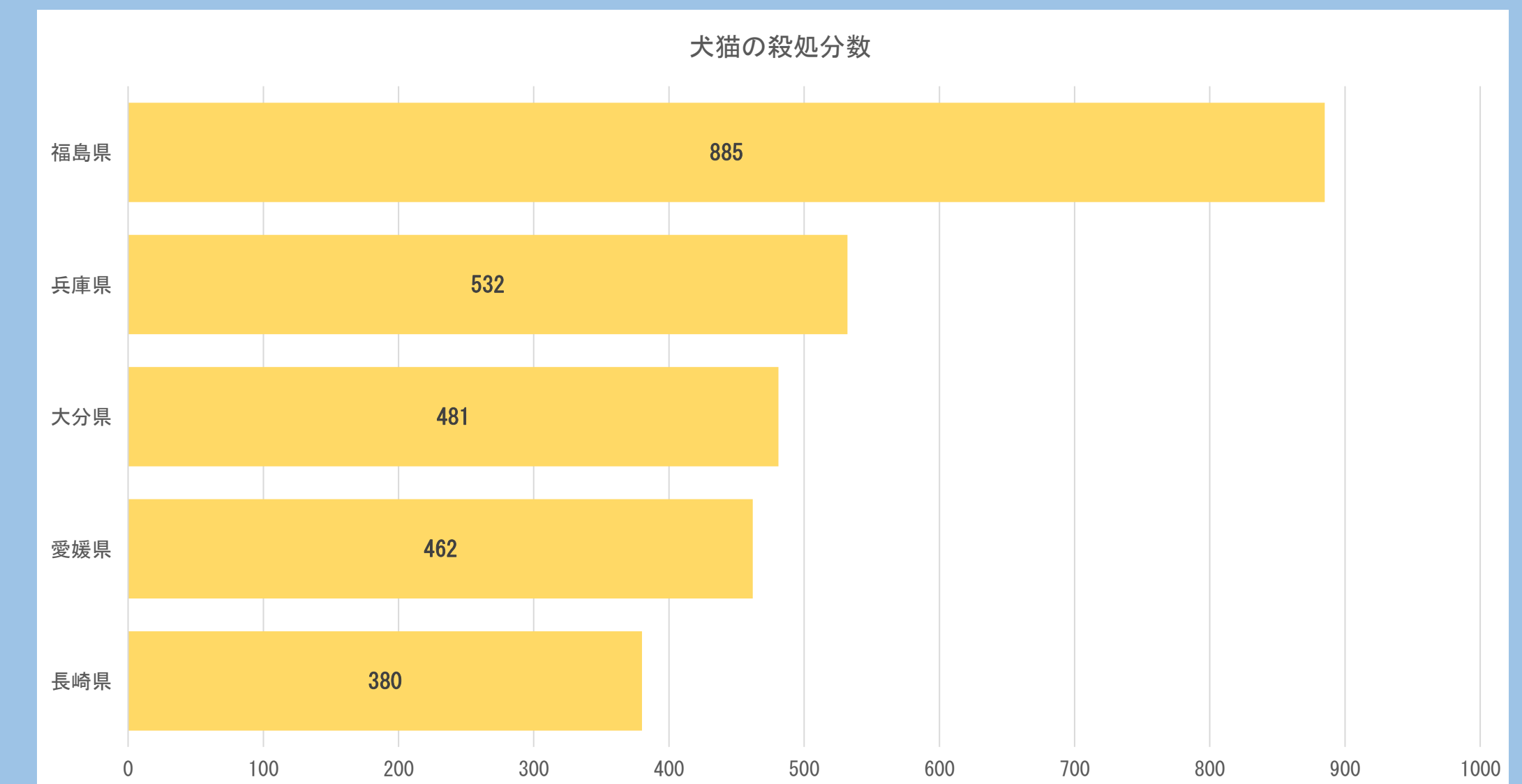
班員：井上瑠南 中野朝日 田中湖都 羽田野和 山口未結 指導者：松岡達則

課題設定の背景

現在、宇和島市では急激に少子高齢化が進み高齢者の数が増え続けている。そして高齢者の孤独感や心身の健康低下が社会的な課題となっている。そのため高齢者の心のケアや安心できる居場所づくりを行うことが大切なのではないかな。



右：環境省より令和5年度の
犬猫殺処分数TOP5



左：RESASより人口構成分析
愛媛県宇和島市

また、愛媛県は猫の殺処分数が全国4位である。人間は動物と触れ合うことでストレスホルモンが減少し幸福ホルモンが分泌されるため、殺処分される予定だった保護猫と高齢者の双方のための活動ができないかと考えた。

動物介在療法（アニマルセラピー）について

ストレスを和らげたり不安や孤独を減らしたりするために、動物と触れ合うことで心や体の健康をサポートする療法



この療法を取り入れた交流イベントを開催することで、高齢者の心理的変化、保護猫の価値の活用を目指すことに決定

調査仮説

- ・猫と関わることで高齢者は孤独感や退屈感が和らぎ生活意欲が向上するのではないかな
- ・交流活動を行うことによって殺処分されるかもしれない保護猫の居場所を作ってあげることができるのではないかな
- ・お互いがお互いの居場所となることで互いに必要とされる関係を生み、高齢者にとっても保護猫にとっても心の安定や満足感が得られるのではないかな

実際に行った交流

1月10日(土)

実際にNEKOSUKIさん、デイサービス心音さんとの一回目の交流を行った。高齢者の方と保護猫との交流を経て、今後の交流に活かせる反省点をいろいろと見出すことができた。

改善点

- ・ 仮説検証になるような交流形態をとれなかった
- ・ 交流の詳細(日時や時間の予定)をもっと前もって決める
- ・ 大人たちに頼りすぎず、自分たちでできることを増やす
- ・ 交流の直前(前日)にNEKOSUKIさん、デイサービス心音さん双方に会って、最終確認をする
- ・ 猫たちにも限界があるため、交流時間をもう少し短くする
- ・ 出し物を増やす
- ・ タイムスケジュールをもっと細かく設定する
- ・ 配布するアンケートの質問内容をもう少し具体的に考え、アンケートを答えていただく方々にとってわかりやすいものにする



今後の展望

- ・ 今回の交流を通しての改善点や良かった点をまとめ、次回につなげる
- ・ 保護猫シェルターNEKOSUKIさんの公式Instagramやデイサービス心音さんの施設だよりに掲載していただくポスターを作成する
- ・ この活動の認知度の向上、猫の殺処分数減少を目標にする
- ・ 来年度以降もこの活動を行い、高齢者と猫のお互いの居場所づくりについて考えていく

今までの活動

保護猫施設NEKOSUKIさんに訪問(現状を聞く)



譲渡会に参加



デイサービス心音さんに訪問



NEKOSUKIさんに訪問(注意事項など)

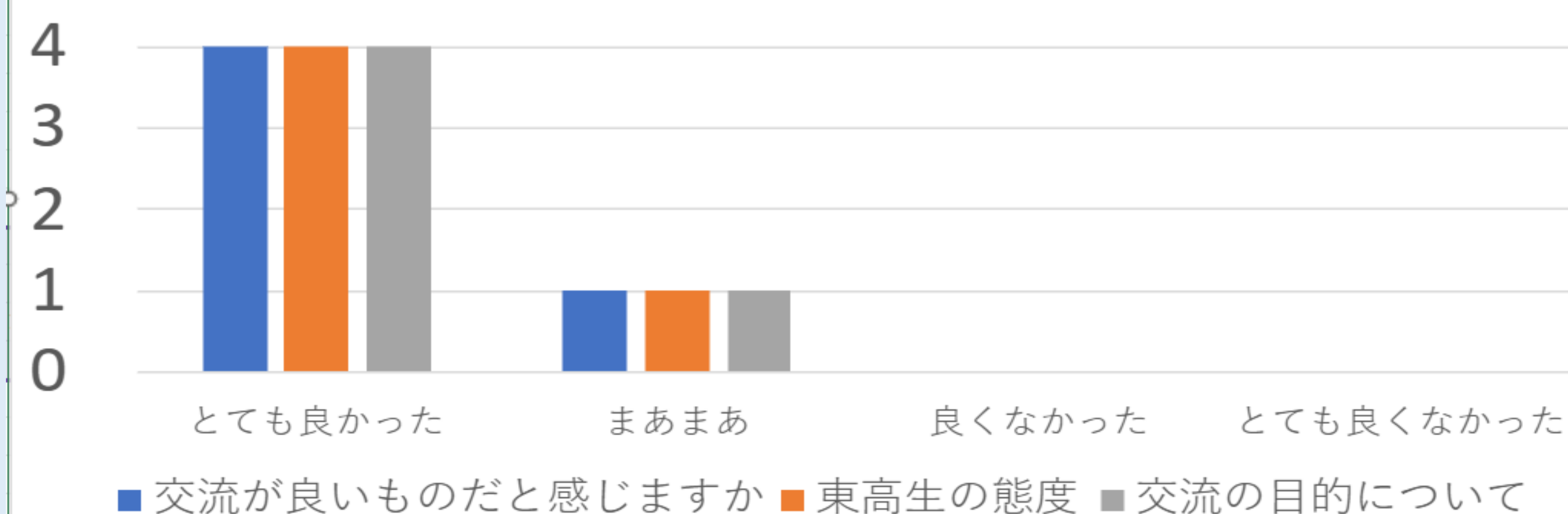


交流の詳細決定



交流

交流についてのアンケート結果



良かった点・悪かった点・感想など

- ・ 癒された(多数)
- ・ また行きたい
- ・ 良い企画だと思った
- ・ 猫クイズもあって楽しかった
- ・ 頭を撫で、抱っこができたのが良かった
- ・ 楽しい時間だった
- ・ 高校生の皆さんが状況に応じて配慮してくださった(職員の方)
- ・ ペットと暮らしたくても難しくなるほとんどで、認知症のある方もいて、普段会話や表情が乏しくなりがちですが、猫ちゃんを通して声が出て、笑顔が出てこちらも嬉しくなった。(職員の方)